

## 平成25年度 各委員会の事業報告 (案)

## この号の内容

## 1 ページ

## 2 ページ

- 平成25年度  
各委員会事業報告 (案)

## 3 ページ

- 「あり方ワーキング  
グループ」立ち上げに  
ついて

## 4 ページ

- お知らせ

---

- 制度政策委員会

- 調査研究委員会

---

## 【制度政策委員会】 委員長 松田 正幸 (デンマーク牧場こどもの家)

自立援助ホームは、平成21年度に従来の補助金制度から児童保護措置費への移行がなされた。また、平成23年度には、事務費の実人員払いから定員払いが実現し、運営面での一定の安定が図られてきた。さらに平成24年度には、賃貸家屋補助や収入のない児童の医療費補助が実現し、第三者評価受審に係る経費の補助、特別育成費の支給等々の改善がなされてきたところである。

特に本年度は、民間企業からの寄付をもとにはあるが、児童養護施設や母子支援施設同様に、自立援助ホームで生活する児童の生活に向けた資格取得のための「社会人一年生スタート応援成」事業が開始したことは、うれしいニュースであった。

今日の目に見えるこれらの前進は、先輩諸氏の長年にわたる地道な努力、闘いの結果であることを今一度、確認したい。同時に「社会的養護」の他の施設同様その一角を担う施設として、一層の運営責任が求められていることも当然のこととして自覚したい。現在の全国協議会は、歴史や理念が異なり、運営形態も違うホームが集まっているが、民主的な組織運営を図ると同時に、今後も困難を抱えて入居してくる子どもたちのために、子どもたちを守る「最後の砦」として、そして同時に子どもたちが社会に向かって歩み始めるスタート地点として、私たちが気概と責任を持ち続けるためにホームの質、量をとともに発展させたい。

## 【調査研究委員会】 委員長 前川 礼彦 (湘南つばさの家)

今年度の調査研究委員会は、委員長が機能しなかったことから活動が活性化できなかった。計画に掲げた事は殆ど実行できずに年度が過ぎてしまったことは大きな反省である。

厚生労働省へ提出する「ホーム人数調査」は従来通り行ったが、全国自立援助ホーム実態調査は検討しながらも実行にまでは至らなかった。今年度については、別の「あり方検討委員会」の中で、簡易的な実態調査の検討に代替した。

今年度は調査研究委員会の活動が活発化される為の体制を、根本的に検討していかなければならない。

## ①ホーム人数調査

毎年、国から要請がある調査であり、利用者の在籍数、年齢、性別やスタッフの構成、加えて暫定定員になったホーム数も調査した。

## ②あり方検討委員会

自立援助ホームの中長期的展望を検討する「あり方検討委員会」を別委員会として設立し、調査研究委員長として加入。簡易的な実態調査を検討した。

## ③全国自立援助ホームの実態調査、ハンドブック第三弾検討

全国自立援助ホームの実態調査を今年度実施する予定だったが、実行できなかった。上記、あり方検討委員会の簡易調査に代替した。また、自立援助ホームハンドブック第三弾は検討の範囲で留めた。今後は広報委員会との連携で検討したい。

**【研修委員会】** 委員長 高橋 一正 (ふくろうの家)

●ホーム長研修会

平成 25 年 4 月 22 日 (於：アルカディア市ヶ谷)

・行政説明 ・研修会 ・新規ホーム紹介

参加者 87 名

・研修委員会

●女性スタッフ研修会

平成 25 年 7 月 25 日～26 日 (於：宇都宮)

・研修会 (事例発表)

・グループ討論

・見学 (星の家)

参加者 46 名

・広報委員会

●全国大会

平成 25 年 10 月 28 日～10 月 29 日 (於：品川プリンスホテル)

・行政説明

・基調講演

・分科会

・シンポジウム

参加者 259 名

●新規ホーム研修会

平成 26 年 1 月 27 日～1 月 28 日 (於：アルカディア市ヶ谷私学会館)

・研修会

・シンポジウム

参加者 34 名

●スタッフ研修会

平成 26 年 2 月 24 日～2 月 25 日 (於：大阪市立社会福祉センター)

・講義

・研修会

・シンポジウム

参加者 30 名

●研修委員会 平成 25 年 5 月 13 日 (東京都)

平成 25 年 12 月 3 日 (函館市)

**【広報委員会】** 委員長 新井 秀親 (夢舞台)

協議会事務局の繁忙に伴い、事務局便りに代わる広報紙の発行、ほぼ滞っていた協議会ホームページの改編と更新のため、平成 25 年度に新たな委員会として協議会の中に広報委員会を立ち上げることになった。将来的には「季刊 児童養護」のような「自立援助ホーム」の研究のまとめの作成・発行を視野に入れ、今後の方針を明確にしていくため、年 3 回広報委員会を開催。初年度は、事務局便りに代わる『協議会たより』を全国大会後、及び年度末に発行。第一回の創刊号は 20 周年記念東京大会の内容を盛り込み、新しい試みとして「ホーム長紹介」を掲載した。一委員がホームページの改編と更新作業を担う事は負担が大きい、複数人では作業の進行・統括がしにくいため、ホームページ担当を決めたものの、ホームページの大きな見直しと拡充は実行できず、来年度への課題として持ち越したい。

今回掲載されている各委員会の「事業報告」は、4 月の総会で提案されるものである為  
 現段階では (案) が記載されております。

## 自立援助ホームの将来像 「あり方ワーキンググループ」の立ち上げについて

全国自立援助ホーム協議会 会長 星 俊彦

### 《目的》

昨今急速に拡充する自立援助ホームの実態を鑑み、協議会として望む「将来の自立援助ホーム像（機能）」や「制度改革」「協議会組織の方向性や課題」など、中長期的な将来像を検討する場を協議会のワーキンググループとして設けたい。国の制度が下りてくるのを待つのではなく今の現場に即した自立援助ホームのあり方を主体的に検討し、国や関係機関に方向性を発信していく協議会を作っていきたい。

---

「今」の現場に即した  
「自立援助ホーム」の  
“あり方”の検討と発信

---

### 《メンバー》

会長・事務局長・各委員会委員長（6名）  
⇒第5回運営役員会にて、メンバーが決定。

### 《開催時期》

運営役員会の前時間を充て、開催する。  
期間は進行状況を見ながら検討。  
⇒メンバーの時間の都合を付ける困難さや、メンバーの交通費削減のため、基本的に毎運営役員会前に開催することが決定。

### 《体制》

ワーキンググループで検討された事を運営役員会で報告。  
審議決定は運営役員会承認。  
適宜会員にパブリックコメントを募る。

## 【新規ホーム研修会及びスタッフ研修会を実施して】

研修委員長 高橋 一正

新規ホームが急増する中、協議会としての研修のあり方が強く問われていることを実感しています。その中で、東京で行われた全国大会に引き続き、1月に新規ホーム研修会、2月にスタッフ研修会が実施され、各々のシンポジウムのテーマが「自立援助ホームに求められているもの」「ニーズの多様化の時代に何を答えていくのか」でした。しかし、グループ討議や交流会の席上では、利用者が表出する問題事項にどう対応して良いかという、援助者としての実践技術を求める声が多い事や、困難ケースに振り回され、自分達の立ち位置やホーム運営のあり方自体に悩んでいるホームも少なくないことがわかりました。改めて、自立援助ホームの基本的な理念や支援のあり方を共有していく必要に迫られていることを痛感しました。

---

新規ホーム研修  
スタッフ研修を通して

---

平成 26 年度 第 7 回全国自立援助ホーム協議会  
ホーム長研修会・総会実施のお知らせ



日時：平成 26 年 4 月 21 日（月）  
～22 日（火）

場所：アルカディア市ヶ谷

申込締め切り：平成 26 年 4 月 5 日

全国自立援助ホーム協議会ホーム長研修会・  
総会が今年も実施されます。御多忙とは存じま  
すが、お早目のお申し込み、お手続きをお願い  
致します。

お申し込み先：  
全国自立援助ホーム協議会 事務局

【会員からの声募集】

「こんな情報を皆に知って欲しい！」  
「教えて欲しい事があるけど誰に聞けば・・・」  
そんな“声”を広報委員にお寄せ下さい。

全国自立援助ホーム協議会の  
ホームページが新しくなりました！

ホームページアドレス

<http://zenjienkyou.fc2rs.com/>

\*アドレスバーに直接入力して下さい\*



掲示板使えます！

ご存知ですか？  
ユーザー名と  
パスワード・・・

お問い合わせは事務局へ  
[zenjienkyou@gmail.com](mailto:zenjienkyou@gmail.com)



自立援助ホーム ガイドブック「さぼおと Guide—実践編—」

発 行 者：全国自立援助ホーム 協議会  
編 集：自立援助ホーム ハンドブック制作実行委員  
会  
発行年月日：2013 年 3 月  
定 価：1,000 円

新しい制度への適応、運営の安定を目指すと共に  
「自立援助ホームとは何か」  
「共有しなければならない支援のあり方とは？」  
を命題に作成されたハンドブック。



【お申し込み・お問合せ】  
全国自立援助ホーム協議会 事務局

【編集後記】

ホームページのリニューアル作業に、少々苦戦しています。今や、どこもかしこも SNS 時代。  
ホームの子どもたちも、手軽で便利な事もあり、大いに活用していますが、ネットは使い方を間違  
えると大変なことになるかねません。話題の『明日、ママがいない』について、やみくもにネット  
炎上ではなく、対話を通して建設的な議論がなされる事を期待したいものです。当事者の生の声が  
届くように…。

広報委員長 新井秀親